

留 学 報 告 書

記入日： 2019年10月2日

氏名	氏名：加藤 美紅
留学先国	ドイツ
留学先大学・学部 (和文及び英語)	(和) ゲーテ大学 言語学・文化学・芸術学部 (英) Goethe University Faculty of Linguistics, Cultures and Arts
留学期間	2018年9月～2019年8月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
帰国年月日	2019年8月8日
明治大学卒業予定年月	2021年3月

留学費用項目	現地通貨(ユーロ)	円	備考
授業料	1000ユーロ	130000円	
宿舍費	300ユーロ	39000円	
食費	2400ユーロ	312000円	
図書費	30ユーロ	3900円	
学用品費	0ユーロ	0円	
教養娯楽費	500ユーロ	65000円	
被服費	200ユーロ	26000円	
医療費	0ユーロ	0円	
保険費	300ユーロ	39000円	
渡航旅費	5000ユーロ	650000円	ドイツ⇄日本往復代, 旅行代
雑費	0ユーロ	0円	
その他()		円	
その他()		円	
その他()		円	
合計	9730ユーロ	1264900円	

渡航関連

渡航経路	行き：成田国際空港→スワンナプーム国際空港(乗り継ぎ)→フランクフルト国際空港 帰り：フランクフルト国際空港→羽田空港		
渡航費用	チケットの種類	エコノミー	
	往路	84,260円	
	復路	82,320円	
	合計	166,580円	

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。	
行き：タイ航空	
帰り：全日空	
滞在形態関連	
種類（留学中の滞在先）例：アパート、大学の宿舎など	
大学の寮	
部屋の形態	<input type="checkbox"/> 個室 OR <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋（同居人数：2人）
住居を探した方法	
渡航前に大学側から寮の案内があり、いくつかの選択肢から自分の希望する金額や部屋タイプに合わせて大学に希望を提出。数日後に大学から結果の通知があった。（自分の希望とは全く違う場所を提示された）	
感想（滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス）	
一年間住んだ結果から言って、1人の時間が欲しい人にはあまり相部屋を勧めない。しかし、寮などは格安な価格により学生から人気なため、入居したい場合は早めに抑えるのが良い。	
現地情報	
現地で病院にかかったことはありますか？大学内の医務室/診療所や附属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 利用する機会がなかった	
<input type="checkbox"/> 利用した；	
学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。	
大学の授業中に携帯を教室の下に落下させ、自力では取ることが出来ない深さにまで落ちてしまっていたため、大学の職員に相談した。しかし、いろんな部署をたらい回しにされた挙句、取ることができないと言われた。相談窓口はあったが基本面倒なことには全く対処してくれないイメージである。	
現地の危機地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？	
イタリアに観光で訪れた際、街を歩いていたところを突然ジプシーの女の子たちに両脇を爪を立てながら囲まれ、身につけていたウエストポーチを奪われそうになった。旅行を共にしていた友達が女の子たちをひき剥してくれ、2人で近くのブランドショップに逃げ込んだら追ってこなくなった。	
パソコン、携帯電話、インターネット（接続について）現地での利用はいかがでしたか？	
寮に有線のインターネットがあったので家では自分でルーターを買い、ネットを使っていた。大学もインターネットがあったため授業が終わったら学部のフリースペースで作業をしていた。	
現地での資金調達はどのように行いましたか？	
学生ビザを取得する際、ドイツに在住するのに十分なお金を所持しているかを証明するため、現地に銀行口座に開設して一年間分のお金を日本から振り込んでもらった。また、バイトでお金を稼いだり、事前に日本でキャッシュパスポートというカードを作り、たまに送金してもらっていた。	
現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
生理用品。変換プラグ。日本語の本。旅行のガイドブック。持っていけるなら調味料や日本食。	

進路について

進路

就職 進学 未定 その他：

進路決定の際に参考にした資料， 函書， 期間など

大学三年秋に戻り、その後就活、四年に卒業予定。

就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。（内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません）

未定。。留学中に外国の人と同じ空間で勉強し共に働くという経験をして、その楽しさを知ったため、業界に問わず海外で働ける人材になりたい。

就職活動中・終了時に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書きください。

留学に行く前にしっかりと留学に行くこと決めた理由や、留学での目的をしっかりと決めておくと、帰国後の振り返りに便利である。

進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

進学を志す留学希望者に向けたアドバイス（準備， 試験対策等）がありましたらお書きください。

その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書きください。

学習についてのレポート（履修した科目ごとに記入してください）	
留学先で取得した単位数合計（科目数）	本学で認定された単位数合計（科目数） ※該当項目にチェックのうえ、記入してください。
9 単位（1 科目）	<input checked="" type="checkbox"/> 2 単位（1 科目） <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません（理由： ）
以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスを含めてお書きください。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	Akademi(Akademische Mittelstufe), A Kurse
履修した授業科目名（日本語）	アカデミー A コース
科目設置学部	ISZ-Internationales Studienzentrum, Arbeitsbereich
履修期間	2018/19 fall semester
単位数	9
本学での単位認定状況	2 単位認定
授業形態（チュートリアル，講義形式等）	チュートリアル
授業時間数	1 週間に 120 分が 3 回
担当教員	Frau Djamila Lahreche
授業内容	ドイツ語の語学コース。教科書を用いながら進めた。
試験・課題など	最終課題は自国の文化や歴史についてのプレゼンと、それをまとめたレポート。
感想を自由記入	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	Jazz dance
履修した授業科目名（日本語）	ジャズダンス
科目設置学部	Hochschule-sport
履修期間	2019 spring semester
単位数	0
本学での単位認定状況	0 単位認定
授業形態（チュートリアル，講義形式等）	チュートリアル
授業時間数	1 週間に 120 分が 1 回
担当教員	Anja Lienert
授業内容	先生に習ってひたすらジャズダンスの指導を受けた。最後は受講者全員で演技をした。
試験・課題など	なし。
感想を自由記入	ドイツ語で細かく指導を受け、理解するのが大変だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	Yoga
履修した授業科目名(日本語)	ヨガ
科目設置学部	Hochschule-sport
履修期間	2019 spring semester
単位数	0
本学での単位認定状況	0 単位認定
授業形態(チュートリアル, 講義形式等)	チュートリアル
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教員	Sureyya Safie, Emeel Safie
授業内容	体育館のホールで先生に習ってヨガをした。
試験・課題など	なし。
感想を自由記入	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	Aikido
履修した授業科目名(日本語)	合気道
科目設置学部	Hochschulesport
履修期間	2019 spring semester
単位数	0
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いてください)
授業形態(チュートリアル, 講義形式等)	チュートリアル
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教員	Thomas Mehl
授業内容	先生に習って合気道を初歩から習った。
試験・課題など	なし。
感想を自由記入	

留学に関するタイムチャート

留学までの準備，試験勉強，留学中，留学後，特に留学に関して発生した事項を記入してください。（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2018年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ留学を考え始める ・ドイツ語と英語の勉強開始
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・留学に対して必要な資格の取得 ・ドイツ語学校に通い始める
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・留学への準備を始める ・サークルの夏合宿 ・留学開始（9月） ・住民登録や銀行口座開設
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学開始 ・お好み焼き屋さんと家庭教師のバイト開始 ・旅行（パリ、ローマ、ミラノ、ベルリン、ニュルンベルク） ・ビザ取得
2019年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に一時帰国 ・授業のプレゼン ・旅行（リスボン、マラケシュ、ベルリン、ミュンヘン）
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始 ・ドイツ人友人と公園でピクニック ・旅行（アムステルダム、ロンドン、チューリヒ、ブリュッセル、ワルシャワ、クラクフ、アテネ、クレタ島、ミュンヘン、プラハ、ウィーン、ザルツブルク）
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行（ロンドン、パリ） ・帰国 ・大学開始
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	自分が独学で学んでいる色彩学における、色彩という概念を生み出したのがゲーテ氏であったため、ゲーテ大学に行けば色彩学における知見が得られると思ったから。また、第二外国語でドイツ語を選択していたためドイツ語のスキルをより伸ばすには現地で生活することが一番の近道だろうと考えたため。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	個人的には語学のレベルをネイティブの会話が理解でき、それに応答できる程度まで引き上げることが一番大切です。もしそのレベルまで到達してから留学に臨んでいたなら、より様々な世界を見ることができたのだと思います。大学は留学生であれ、ドイツ語ができて当たり前の世界だったので、語学の授業でさえ追いつくのがやっとでした。
この留学先を選んだ理由	上記にも述べましたが、自分の興味がある分野の概念を生み出したヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ氏にゆかりがある大学だったので、そこで学ぶことによって色々な知識を得られると思ったからです。
大学・学生の雰囲気	大学は、ドイツ人はともかく色々な国から来た学生から構成されていて、その場で勉強しているだけでも周りから色々な言語が聞こえてきました。また、至る所にテーブルが置かれていてすぐに勉強したり、仲間とディスカッションするスペースが整っていたのが印象的です。
寮の雰囲気	私の寮は主に大学生が住んでいて、地下のパーティールームでは留学生同士が週に一回パーティーを開いて盛り上がっていました。隣接された寮では各階に広々としたダイニング付きのキッチンがあり、そこに飲み物や料理を持ち寄ってパーティーを開いたりしました。
交友関係	留学当初は出国前に申し込んでいた大学のバディプログラムでできたドイツ人のバディと共に授業を受けたりしながら、その後は日本語学科を中心に友達ができました。ドイツ人の友達の紹介で始めた日本料理店でのバイトでドイツ人の子と仲良くなり、後期はバディの子とその子とタンDEMという名で週に二回色々な場所に行っておしゃべりしたりしていました。
学習内容・勉強について	元々色彩学を学ぶためにドイツに留学しましたが、大学にあると思っていた授業がなく、前期はドイツ語の授業だけを取り、興味のある授業を聴講し、後期はスポーツの授業のみを受け、ほぼ自分の興味がある分野の色彩学とデザインについてを独学で勉強していました。

課題・試験について	ドイツ語の語学の授業のみを受けていたため、課題は週に一回しかありませんでした。しかし、ドイツ語が話せる人向けの課題だったため、自分にはレベルが高く、毎回とても苦戦していました。
大学外の活動について	大学外では日本料理店のバイトを主にしていました。ホールスタッフとして働いていたため、英語とドイツ語を用いて接客をしていました。タンデムでは日本語が話したい子とドイツ語が話したい私で色々な場所に行って互いに文化を教え合ったり、言語を教え合ったりしていました。
ある平日のスケジュール	7時：起床、8時：シャワー、9～12時：授業、12～13時：昼食、13～16時：自習、16～24時：バイト、24時：帰宅
ある休日のスケジュール	9時：起床、10時：シャワー、11～13時：友達と昼ごはん、13～15時：友達とカフェ、15～19時；自習、19～20時：夜ご飯、20～24時：映画や動画鑑賞、24時：就寝
留学を志す人へ 「これを知っておいて欲しい」と思うこと	留学期間中は、何事も恐れずに果敢にチャレンジして欲しいです。海外で学生生活を送る経験は、これからの人生でもう一度できるかわからないような貴重なものです。文化も背景も全く違う国に住むことによって、自分の新たな部分を見つけることができるかもしれません。そのためにも、いつも探求する精神を忘れず、積極的な姿勢で挑んでください。

